
Innovation & Rebuild

株式会社メガチップス
2011年3月期第3四半期 決算説明

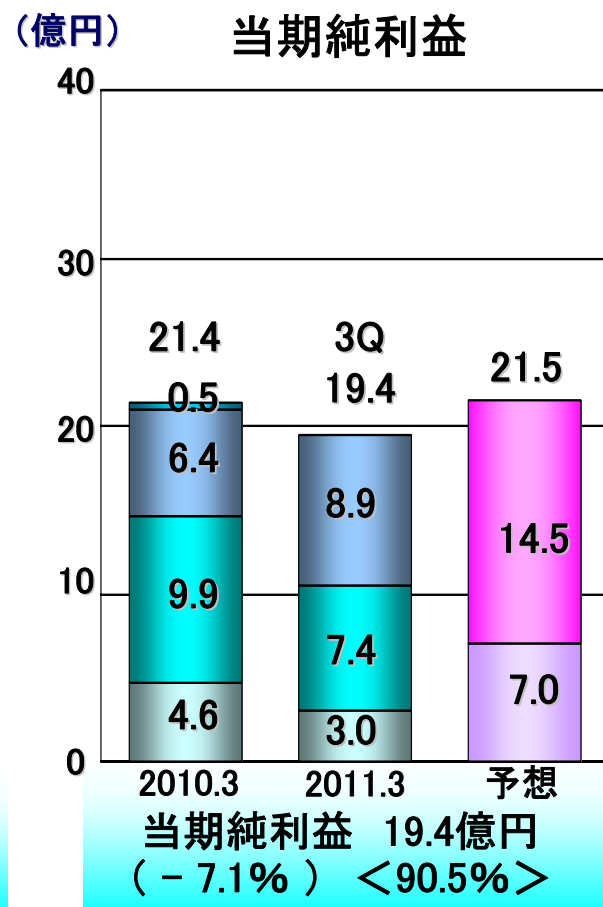
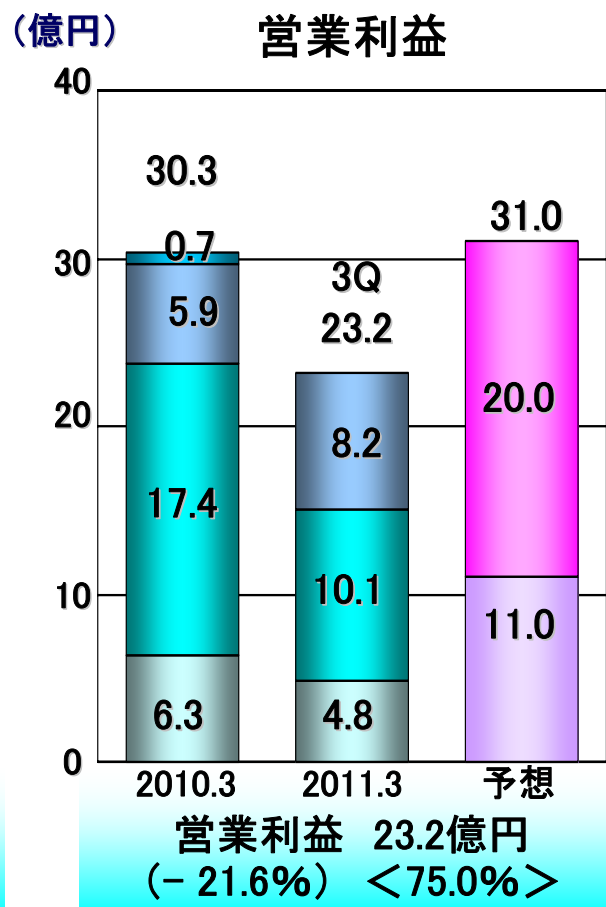
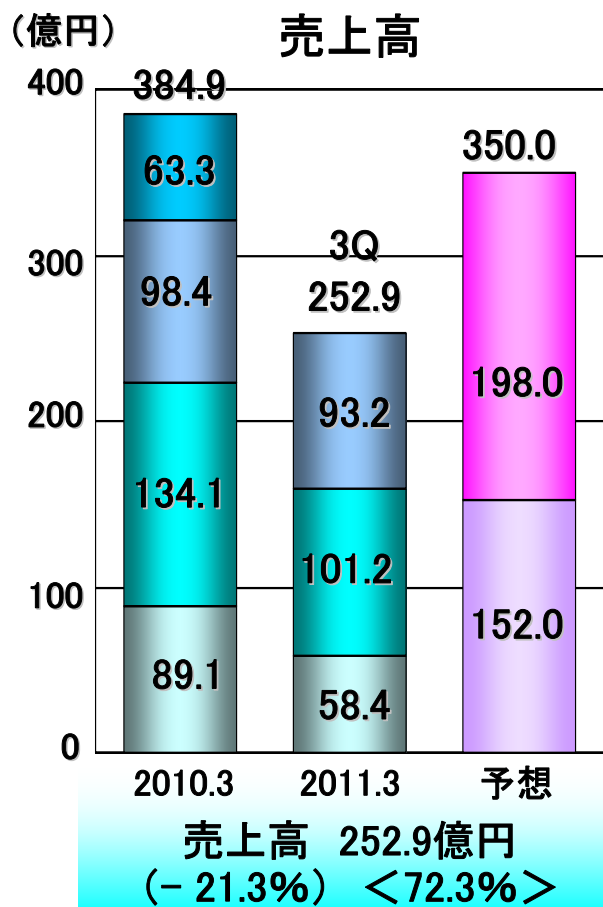
<http://www.megachips.co.jp/>

目 次

1. 2011年3月期 3Q業績報告	3
2. 2011年3月期・中期経営方針		
および中期業績予想	10
3. まとめ	17

2011年3月期 3Q業績報告

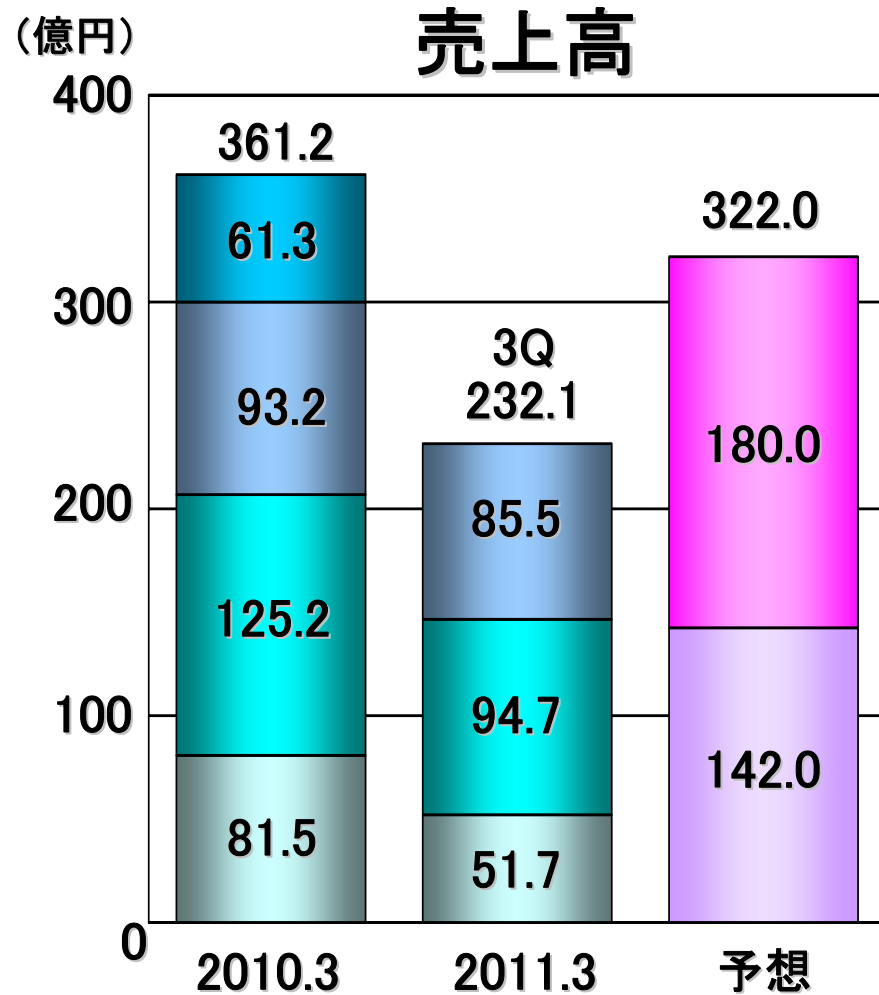
2011年3月期 3Q業績(連結)



※()は対前期増減率(%), <>は通期予想進捗率(%). ※予想数値は、2010年5月11日公表数値です。

★前年度(2010年3月期)の四半期純利益には、研究開発費にかかる税額控除対象の適用範囲見直しによる法人税の戻し入れが1億1千万円ありました。

LSI事業の売上高

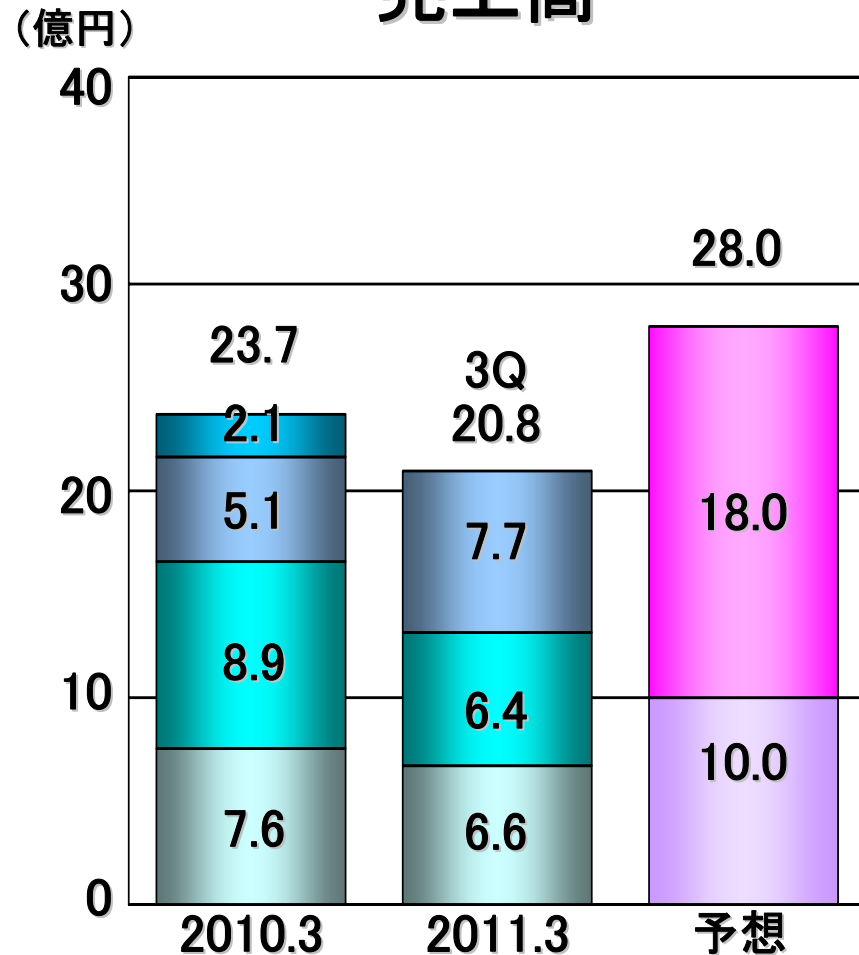


売上高 232.1億円
対前期増減率 -22.6%
通期予想進捗率 72.1%

- 主要製品である携帯ゲーム機向けソフトウェア格納用LSIの需要が、減少したことにより、売上高は前年同期比で減少した。
- 業績予想に対しては、予想どおりに進捗している。

システム事業の売上高

売上高



売上高 20.8億円
対前期増減率 -3.6%
通期予想進捗率 74.5%

- 顧客専用映像監視機器の需要が前年とほぼ同水準で推移し、売上高は前年同期比でほぼ同額となった。
- 業績予想に対しては、予想どおりに進捗している。

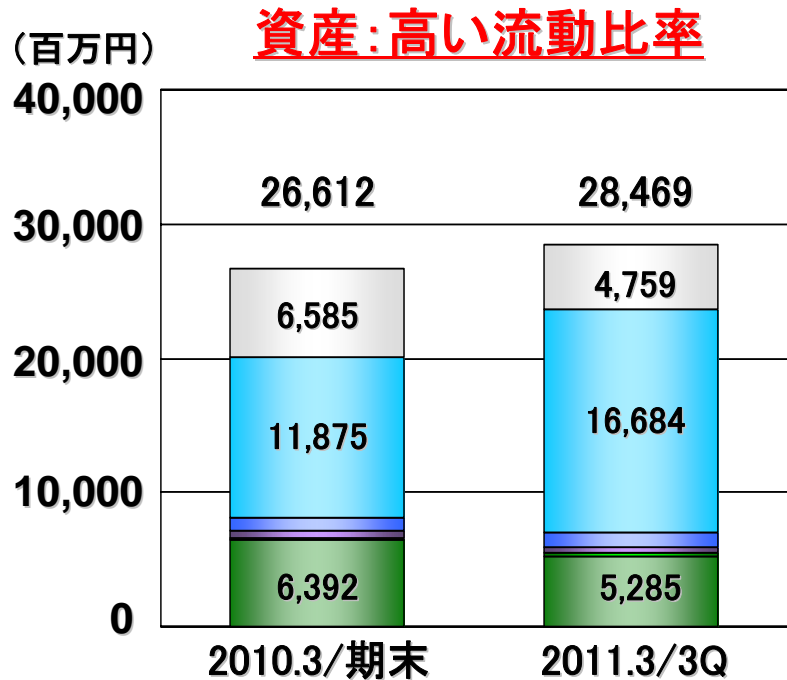
※予想数値は、2010年5月11日公表数値です。

2011年3月期3Q_連結業績(P/L)サマリー

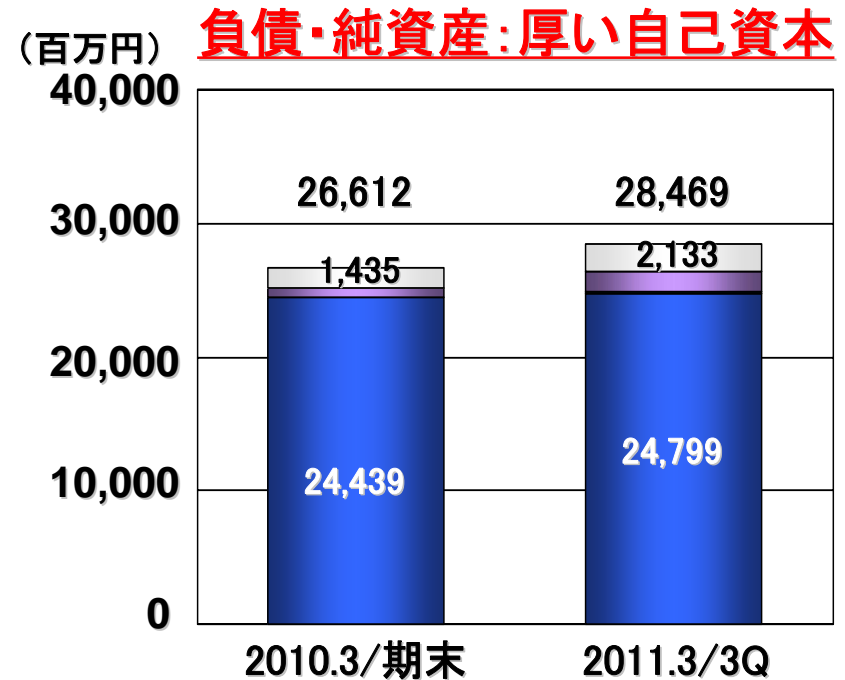
(単位:百万円)		2011.3期 3Q(累計)	2010.3期 3Q(累計)	2011.3期 通期予想	対前年 同期比	対 通期予想 進捗率
LSI事業	売上高	23,211	29,999	32,200	- 22.6%	72.1%
	営業利益	2,710	3,621	3,600	- 25.2%	75.3%
システム 事業	売上高	2,087	2,165	2,800	- 3.6%	74.5%
	営業利益	- 349	- 629	- 500	—	—
連結	売上高	25,298	32,164	35,000	- 21.3%	72.3%
	営業利益	2,324	2,964	3,100	- 21.6%	75.0%
	経常利益	2,584	3,045	3,100	- 15.1%	83.4%
	当期純利益	1,944	2,094	2,150	- 7.1%	90.5%
	1株利益(円)	80.24	86.30	88.51	- 7.0%	90.7%

★前年度(2010年3月期)の四半期純利益には、研究開発費にかかる税額控除対象の適用範囲見直しによる法人税の戻し入れが1億1千万円ありました。

2011年3月期_3Q財政状態

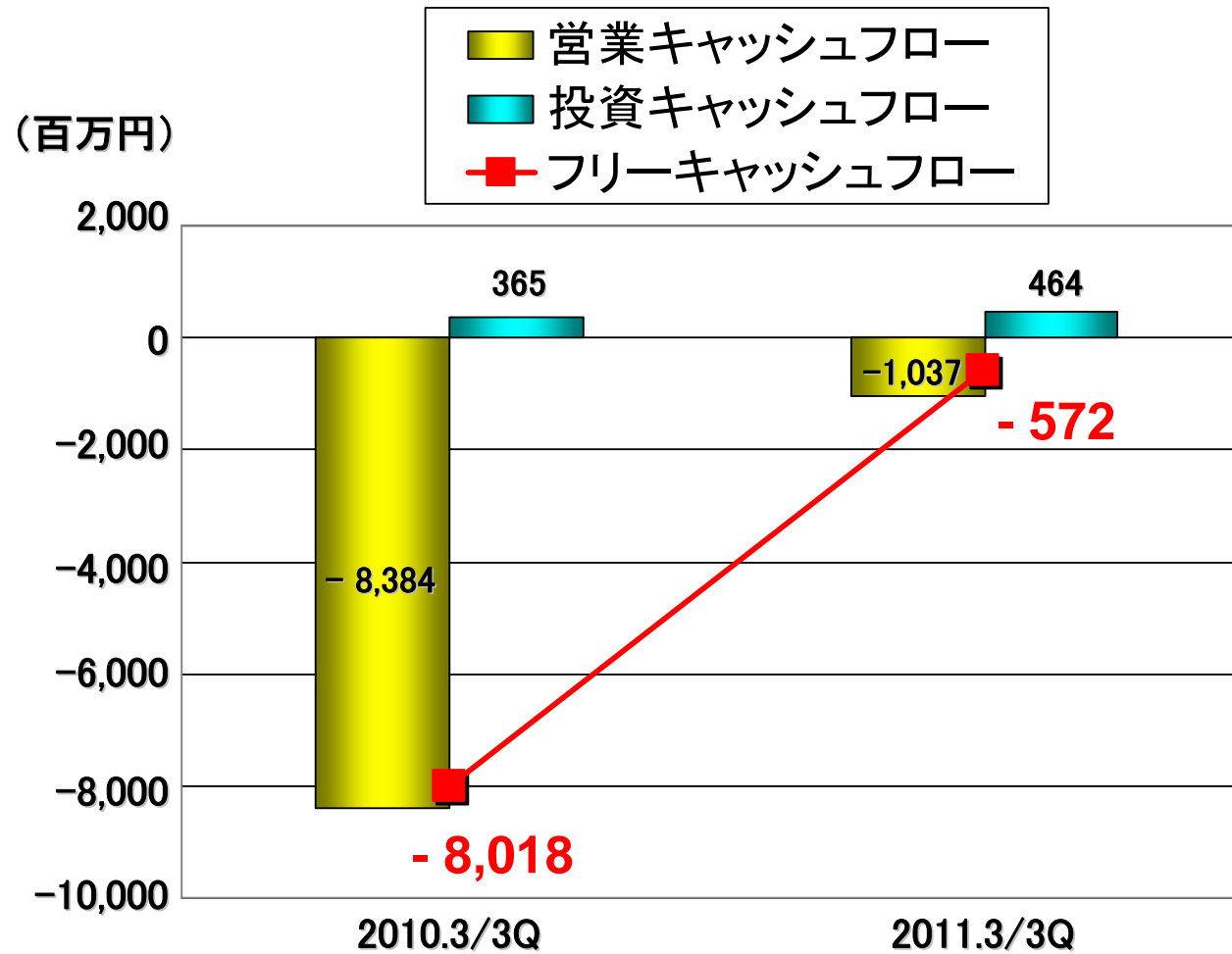


	2010.3/期末	2011.3/3Q
現金及び預金	6,585	4,759
受取手形及び売掛金	11,875	16,684
たな卸資産	946	1,168
その他の流動資産	596	384
無形、有形固定資産	215	187
投資その他の資産	6,392	5,285



	2010.3/期末	2011.3/3Q
支払手形及び買掛金	1,435	2,133
有利子負債	0	0
その他流動負債	698	1,498
その他固定負債	38	38
純資産	24,439	24,799

2011年3月期_3Qキャッシュフロー



2011年3月期・中期経営方針および 中期業績予想

2011年3月期中期成長戦略

日本でNo.1のLSI関連ファブレス・ベンチャー企業として！
ワールドワイドにソリューションプロバイダとして認知を得る。

1. 顧客とともに長期的に成長・発展できるビジネスを構築する。
2. 安定した経営を目指し、適正な事業ポートフォリオを作り上げる。
3. 高収益化への体質改善により、事業効率を向上させる。

ビジネス形態の改革：顧客密着型ビジネスに集中

1) 顧客密着型ビジネスに集中し、 顧客との長期的なWin-Winの関係構築を進める。

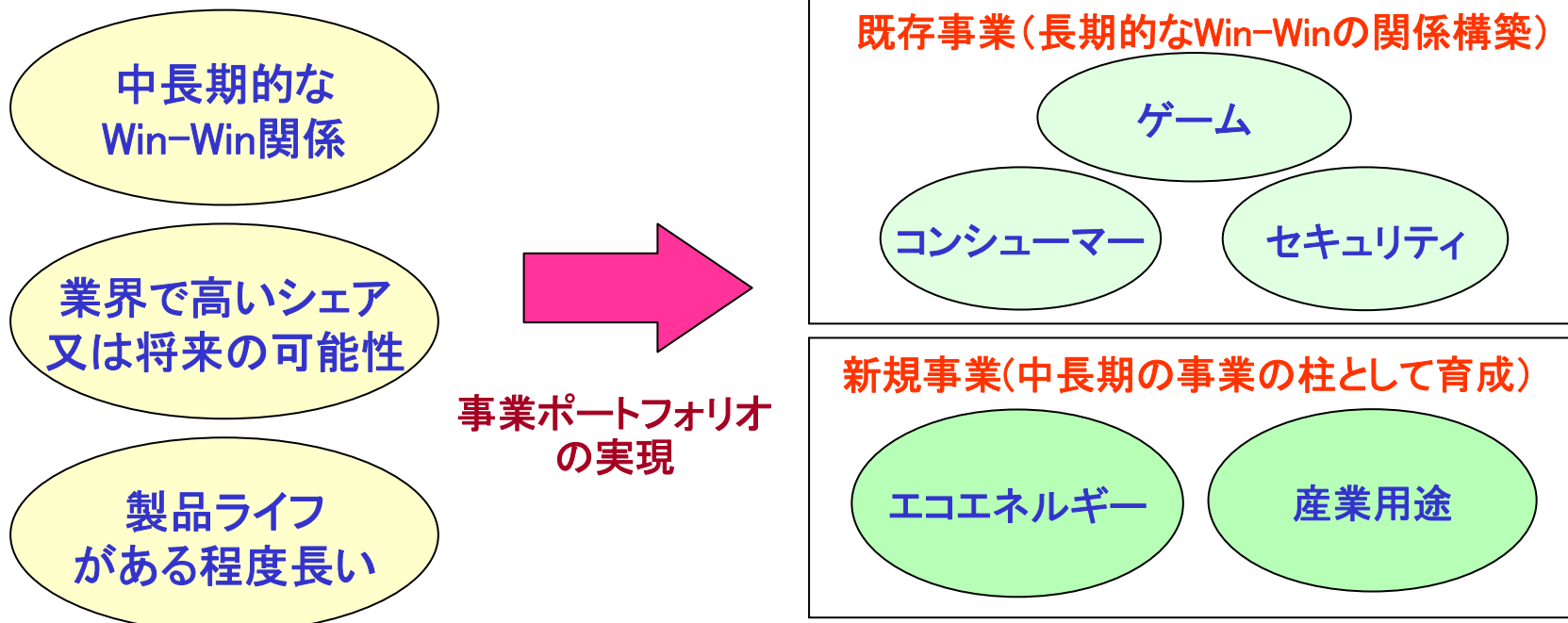
- ①顧客と長期的なwin-winの関係を築ける最適なビジネスモデルを作り上げる。
また、顧客とビジネスリスク分担の最適化を進める。
- ②良好なビジネスを長期的に維持するためコアコンピタンスを磨く。
 - 1: 特徴あるビジネスモデル
 - 2: 長期アライアンス契約
 - 3: 技術特許
 - 4: ハード、ソフトのノウハウ
- ③技術を特定顧客と直接競合とならない複数分野へ展開し、ビジネスの拡大を図る。

事業構造改革: 適正な事業ポートフォリオの実現

2) 新規市場の開拓と既存事業の拡大で事業ポートフォリオを実現する。

高い市場シェアを持っており、長期的にWin-Winになれる新規市場の顧客を開拓する。

既存顧客に関しても、長期にWin-Winの関係になるよう知恵を絞るとともに事業の幅を広げるようにし、適正な事業ポートフォリオを実現する。



高収益化への体質改善

●高収益化への体質改善

アライアンス活用、原価コントロール、生産工期短縮、在庫圧縮、業務効率改善等施策により、高収益化を図る。

- (1) アライアンス活用による開発の効率化・事業リスクの軽減
- (2) 開発段階からの総原価コントロール、原価低減
- (3) 生産工期短縮と在庫の圧縮
- (4) 人員の配置・規模の最適化と業務効率の向上

中期業績目標

中期業績目標(2013年3月期の目指す姿)

●営業利益率 10%以上

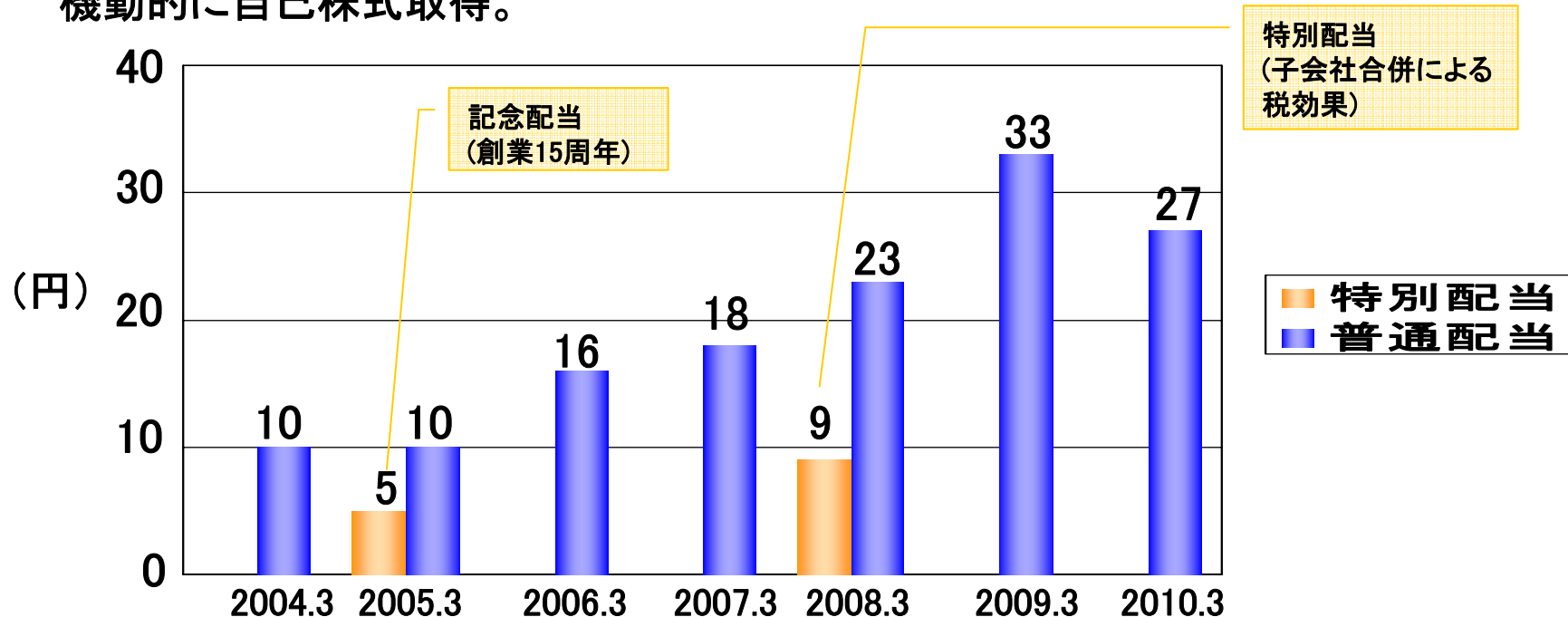
	2010年3月期 実績	2011年3月期 予想	2012年3月期 予想	2013年3月期 予想
連結売上高	384億円	350億円	400億円	480億円
連結営業利益	30億円	31億円	38億円	55億円
営業利益率	7.9%	8.9%	9.5%	11.5%

※予想数値は、2010年5月11日公表数値です。

経営体質(利益配分)

【配当方針】

- ① 中長期的な成長に向けた投資を行うため、また経営環境の変化にも耐えうる健全な財務体質の維持に必要な内部留保を確保。
- ② 剰余金の配当は、配当性向30%程度、または連結純資産配当率(DOE) 2%程度のいずれか高い方。
- ③ 資本効率向上のため、市場の状況、株価動向、財務状況等を勘案し、機動的に自己株式取得。



まとめ (Key Investment Highlights)

- **顧客とともに長期的に成長・発展できるビジネスを構築する。**
顧客のニーズに応える最適なソリューションを提供することで、顧客と密着して強固な補完関係を構築し、顧客とともに長期的に成長・発展できるビジネスを育成することにより事業の拡大を図る。
- **安定的な経営を目指し適正な事業ポートフォリオを作り上げる。**
エコエネルギー、産業用途等の新規事業を立ち上げる。
また、既存顧客も事業の内容を見直し、事業の幅を広げる事で事業のポートフォリオを実現する。
- **高収益化への体質改善により、事業効率を向上させる。**
製品原価の低減、在庫の圧縮、開発のスピードアップ等業務改善により事業効率を上げると共に、無駄を省き地球環境の維持にも貢献する。

≫ 基本姿勢

当社は、「公平性」「適時性」「正確性」「継続性」に配慮して、経営戦略や財務状態等の会社情報を発信し、経営の「透明性」を高めるとともに、株主・投資家・証券アナリストの皆さまからの当社に対する信頼と適切な評価を得るために、経営者自ら積極的なIR活動に取り組みます。

≫ 情報開示の基準

当社は、金融商品取引法、会社法等の諸法令(以下、「法令」)、また当社の株式が上場されている東京証券取引所の定める「上場有価証券の発行者の会社情報の適時開示に関する規則」(以下、「適時開示規則」)を遵守してディスクロージャーを行います。また、法令ならびに適時開示規則に規定される開示基準に該当しない場合でも、株主・投資家・証券アナリストの皆さまの投資判断に影響を与えられとされる情報や、当社への理解を深めていただく上で有用であると思われる情報は、積極的に開示します。

≫ 情報開示の方法

当社は、適時開示規則に定める開示基準に該当する情報、株主・投資家・証券アナリストの皆さまの投資判断に影響を与えられとされる情報は、適時開示規則に従い、東京証券取引所が運用する適時開示情報伝達システム Timely Disclosure network (TDnet) を通じて開示するとともに、速やかに当社のインターネット上に開設するホームページ(以下、「ホームページ」)に掲示します。
また、これら以外の情報についても、当社を理解していただく上で有用であると思われる情報は、IR情報誌等の発行や、ニュースリリースの配信やホームページへの掲載を通じて情報発信します。

≫ 将来の見通しについて

当社が開示する情報の中で、業績予想や将来の予測等に関する記述は、その情報が開示される時点で経営者が入手した情報に基づき判断した予想であり、不確実性や潜在的なリスク(以下、「リスク」)が含まれる場合があります。しかし、結果としての業績等は、変化するさまざまな要因によって、予想とは異なることがありますことをご承知おきください。これらリスクは「事業等のリスク」として開示に努めますのでご参照ください。

≫ 投資の判断

当社の開示する情報は、当社に対する理解を深めていただくことを目的としており、投資勧誘を目的としたものではありません。投資に関する決定は、ご自身の判断において行なわれますようお願いいたします。

≫ 第三者が発行する当社情報への対応

証券アナリストや報道機関、インターネット上のさまざまな情報サイト等の当社以外の第三者が発信する、当社の情報・業績予想等各種情報については、当社はコメントやこれらを支持する立場にはありません。ただし、これらの内容に明らかな誤りが含まれており、当社への信頼と適切な評価が得られないと判断する場合には、その誤りを訂正し、正確な情報を伝えるための対応を行います。

≫ IR沈黙期間

当社は、株価に影響を与える決算情報の漏洩を防ぎ、公平性を確保するため、各四半期の、決算日含め5営業日前から決算発表日までを沈黙期間と定めます。この期間中は、決算に関連するお問い合わせへのコメントを控えさせていただきますので、ご理解いただきますようお願いいたします。ただし、法令や適時開示規則に該当する情報については、沈黙期間中であってもディスクロージャーを行った後、お問い合わせに対応いたします。

≫ 関連

適時開示に係る宣誓書(東京証券取引所ホームページに掲載)
適時開示体制概要書(東京証券取引所ホームページに掲載)
情報開示標準(当社社内規則)

本資料に関するお問い合わせ先

株式会社メガチップス
管理統括部 経営企画課 広報グループ
ir-team@megachips.co.jp

〒532-0003 大阪市淀川区宮原4丁目1-6 アクロス新大阪
TEL: 06-6399-2884(代) FAX: 06-6399-2886